

大杉谷国有林からの手紙

60 通目 ～大杉谷における取組 2023 年4月～

2024 年 3 月

また新たな春を感じる時期となってきました。今回はこの一年を通して大杉谷国有林で取り組んだ内容を一部ではありますがご紹介いたします。

4月21日、大杉谷の一年の初めとして登山者の安全及び、救助活動や登山歩道維持管理業務の安全を祈願するため、大杉谷登山センターにおいて関係者約40名が出席し、大杉峡谷オープンニングセレモニーが開催されました（写真1）。

また、事前確認として4月13日から14日の2日間の日程で、大杉谷登山道の安全点検及び歩道整備を目的に環境省・三重県・大台町・警察・消防関係者や三重森林管理署も含めた参加者により、大杉谷登山歩道合同パトロールが実施されました。



写真1 オープニングセレモニーの様子

大杉谷国有林では、昭和30年代に相次いで発生した大型台風の影響により、大規模な風倒木被害が発生しました。その結果、ササの分布拡大やニホンジカの個体数が増加したため森林被害が発生しています。このような状況に対処するため、森林再生や保護を目的として、環境省近畿地方環境事務所と連携したボランティア参加型の取り組みとして、大台ヶ原・大杉谷の森林再生応援団を開催しています。

今年度は9月28日にボランティアとして40名の参加者があり、そのうち三重森林管理署が担当する20名のボランティアの方々と協働して、天然トウヒ稚樹9本をニホンジ



写真2 参加者による植生保護柵設置の様子



写真3 成長を促すトウヒ稚樹

カ等の食害から保護し成長を促すため、稚樹の周りに植生保護柵を設置しました（写真2、3）。

私が担当した班の参加者からは「昨年も参加しましたが、今年の実績は充実感があった。これでトウヒの稚樹が成長してもらえればと思います。」との感想がありました。今後も引き続き、ボランティアの方々の協力を得て森林再生に取り組んでいきます。

森林の再生を目的とした森林整備事業として、植生の回復を補助するため0.16haの未立木地への地域性苗木204本（大杉谷国有林に自生する樹木から種子を採取し育てた苗木）の植栽（写真4、5）やニホンジカから植生を保護する柵を約353m設置しました。これまで設置した植生保護柵の点検・維持も継続して行っています。

また、森林を荒廃させないため73頭のニホンジカの捕獲を行いました。



写真4 地域性苗木を植栽する様子



写真5 植栽された地域性苗木（ホオノキ）

森林の維持・造成などを通じて、山崩れ等の災害の防止、清らかな水の安定的な確保、生活環境の保全などを図り、安全で豊かな生活を実現するための治山事業を行っています。

今年度は溪間工事の中で、荒廃した溪流の復旧や荒廃のおそれのある溪流において、土石流などの災害を予防するために鋼製谷止工1基を施工しました（写真6）。来年度は山腹工事を実施予定です。

2023年度は発行回数が1回となりましたが、来年度は大杉谷国有林の魅力的な自然、遺構や事業等の発信をしていきたいと思ひます。



写真6 鋼製梓谷止工

2024年3月

編集・発行：三重森林管理署 尾鷲森林事務所 地域統括森林官